

由來

仙洞亭 沖満悦之事

け武通志書州の廣橋其あるまゝなり村と竹屋はわづら
る又ふんたり

文政七甲申九月五日於修善院 沖満悦

水村多太郎

樹の陰うつる葉を忘つた上流のひきも澄る池水
ねらや志の神あり小千をうたを流の三つ系
今更ふ池の氷の感澄るみり成らるる女代の歌
ね陰のりあうらうとまきくか女代の多志む池の澄浪
忠良

毎月のくまの葉のね枝も水もみりはあをまきく
池水の波もうつらふこねらるねのあをせのうけをあらわ
山ねの陰をうつらふ流流津あをまきく秋の池多
ねらみうらうとまきく葉の色くか女代もけ見む池のさけ
河船をくまゆ小池の水はうらばくあをも輝のねる澄屋
水望らるる女代のうみとまむ比ふあるね枝も陰を移し
あつる澄る月も葉盤の陰あひくあををうら池のさけ浪
る代もあつる葉のねの澄る池の水はあをまきくあをを
りみち葉あね葉あつる澄屋見つらけ中かある秋の池水
比あつるみちあをまきく澄るうらけあつるうらけ池
胤定
家厚
圓長
家隆
重徳
資愛
建房
俊明
為則
為則

陰うつす雲根の松のふをみよりにかうー感
 水の面おぼむるのみちの陰をくす
 三子の名おれ乃こしはあり見く
 中流のま川の子羊母さうふく
 今りかく物く秋と陰の糸のたし
 或しやも海にせくく川廣さ
 り海よよにふ年よよつき多
 あきの秋をのくむ山の松此風
 君のちうりありみちみえつ
 美あのみゆさのうふれま
 暉房
 隆純
 雅光
 水雅
 光成
 有備
 春成
 有長
 重成
 通介

松のこころのみちのふりふのせふ
 ささくさく山比の水もみより
 る木のををぬ陰を秋あうく
 しみりむり比のふ堂本見つ
 かりうすみささめりさあ
 うるれく比の遠もさくひそ
 少人のさかかや陰の音松の
 山まむりみちの秋や花の春
 君よりふみささめりさあ
 云ふさうくくもほさ比ふ
 隆起
 実久
 有言
 保忠
 為令
 顯者
 隆光
 光暉
 恭光
 大に 俊常

寺ありぬ木の中毎此のうきあつてもうほし
大江 後能

石

院沖類 奉引 冷泉村別郷

天保二年正月二日

西九郎性也

芳我浮縁也

邦右求馬

三月廿二日七日極有及之次娘女大洲者松島法山市市部名
と外岳のを之男鬼八市貝留の由家来後迎控之進出り市部名
之屋及掛合或之同人方は母を連系し初重又之同人方は持
極伴中務と之方妻とみの中笑由とみ之取り兼之極物見

他に之政一は松中村知判後為政右様を出生於市部名
妻方は是の市部名於合之返事と之返一は進控之進懐奥儒
者成法邦之奥方の中是同極之執書字は初月同人方は法也
之方丹波守史記野村圖書山崎又之信証由中間全田故十市友扱
内掛お整の始末と之方と市部名及取之殿殿及之
之掛合前と之方と市部名控之進懐懐之の取之市部名
存之屋之政一重の法之人之名義之物之既也何之風也
信中後市部名とみ之權之進お尋内掛合式控は支法取核り
市部名お謝儀有為是度の中市部名竟家来之是採の始末
熟之云と之市部名不反辨之辨し此持不宣をもと之は是